

# 令和2年産 麦類技術情報

第2号 令和2年4月10日

宮城県美里農業改良普及センター

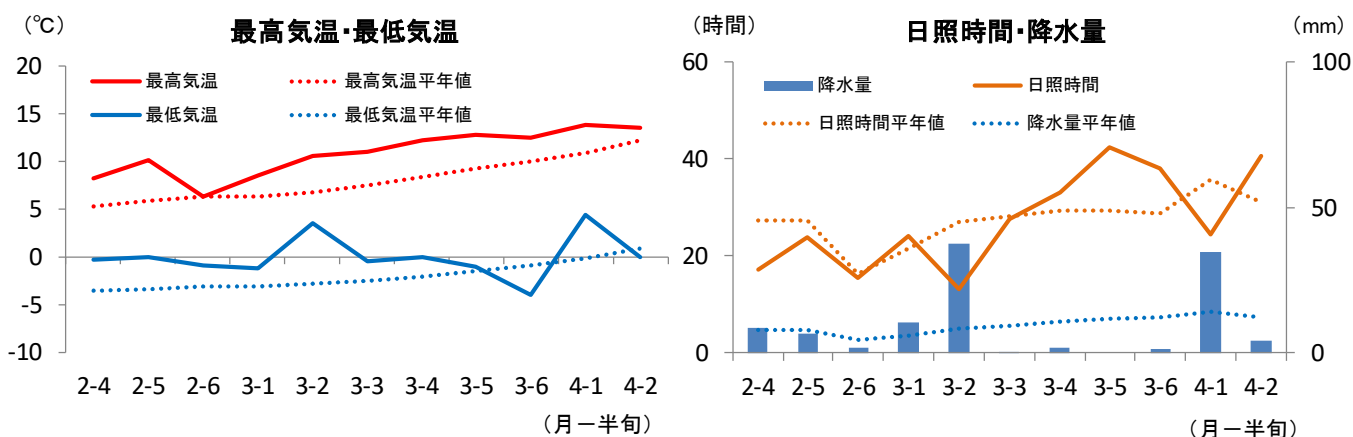
TEL 0229-32-3115 FAX 0229-32-2225

URL <http://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>



生育状況を確認し、4月下旬～5月上旬を目安に減数分裂期追肥を実施しましょう

## 1 気象経過 (2月第1半旬～4月第2半旬：アメダス鹿島台)



期間を通して、最高気温は平年より高く経過し、最低気温についても3月第4半旬まで高く経過しました。2月から3月第2半旬にかけて平年並～多い降水がありました。

## 2 生育調査ほ生育概況

表 小麦生育調査結果

地区名	品種	播種量 (kg/10a)	条間 (cm)	播種日			3月20日調査									4月10日調査								
							草丈			莖数			幼穂長			草丈			莖数			幼穂長		
							本年値 (cm)	前年比	平年比	本年値 (本/m)	前年比	平年比	本年値 (mm)	前年比	平年比	本年値 (cm)	前年比	平年比	本年値 (本/m)	前年比	平年比	本年値 (mm)	前年比	平年比
大崎市 鹿島台	シラネコムギ	15	25	11月18日	15日早	16日遅	7.5	63%	59%	306	70%	31%	0.5	153%	70%	32.8	225%	148%	1356	138%	115%	3.8	271%	209%
涌谷町	夏黄金	12	20	11月11日	9日遅	-	6.4	49%	-	410	24%	-	0.6	55%	-	25.4	126%	-	1073	82%	-	5.7	238%	-

※平年値は過去5年間の平均値を使用。

4月10日調査では、平年と比べて草丈は長く、莖数は多くなっています。幼穂の伸長も進んでいるので、各ほ場の生育状況を確認し、減数分裂期追肥を確実に実施出来るよう準備しましょう。

なお、シラネコムギ調査ほ場の減数分裂期は4月29日、出穂期は5月9日、開花期は5月20日の予測（麦類生育ステージ予測シート Ver.3.0：古川農試）です。

### 3 今後の管理について

#### (1) 減数分裂期追肥 : 窒素成分で 5kg/10a 程度

小麦の追肥時期の目安となる減数分裂期（幼穂長 30mm 程度）の判定は、止葉とその下の葉の葉耳間長から推定できます。

調べる茎は極端に弱い分けつを除く全ての茎を対象とし、ほ場内全茎数の 40～50%が葉耳間長±0mm に達したときが減数分裂期の目安です。

幼穂長		30mm		40mm		50mm
葉耳間長(mm)	シラネコムギ	-30mm	→	+3mm	→	+30mm
	ゆきちから	-35mm	1～2日	±0mm	1～2日	+25mm
葉耳間長の形態的推移						

#### (2) 排水対策

茎立期以降はこれまでより湿害に弱くなるので、ほ場表面の停滞水の排水対策を徹底しましょう。

- ・大雨の後など、ほ場を巡回して水が停滞していないか確認しましょう。
- ・明きよの状態を確認し、円滑に排水できるよう手直ししておきましょう。

◇◇◇◇ 令和2年春の農作業安全確認運動実施中 ◇◇◇◇

実施期間 令和2年3月1日～令和2年5月31日

重点推進テーマ 「見直そう！農業機械作業の安全対策」



### (3) 赤かび病防除 : 適期に防除を行いましょう

- ◇ 1回目は「開花始め～開花期」, 2回目は「その7~10日後」が目安です。
- ◇ 耐性菌が出ると防除効果が低下します。同一系統薬剤の連用は避けましょう。
- ◇ シラネコムギは2回, 夏黄金は3回防除が基本です。ただし, 開花期に天候不順が続く場合は, シラネコムギも追加防除を検討しましょう。
- ◇ 感染・発生後では防除効果が低くなります。降雨が続くような気象条件であっても, 晴れ間をぬって作業を実施するなど, 確実に防除しましょう。

時期 (R2の場合)	5月上旬		5月中旬	5月下旬		6月上旬	
赤かび病 防除時期			防除①	7~10日	防除②	7~10日	防除③
小麦生育 ステージ	出穂 始期	4 * 出穂 期 50% の出穂 した時	8 * 穂 揃い 期 90% の出穂 した時	開花 始期	開花 期	* 乳 熟期 緑色を 呈し、 胚乳は 乳状	成熟 期
			3日程度				

### (4) 東北地方1か月予報 (4月11日から5月10日までの天候見通し)

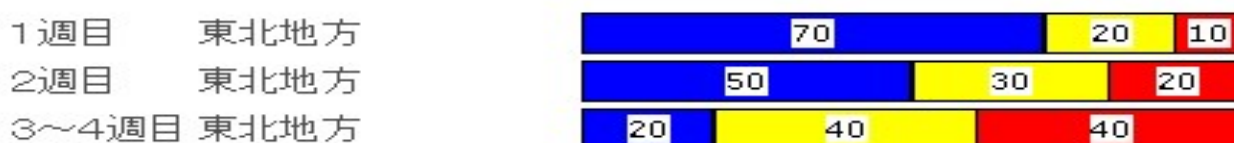
天気は数日の周期で変わり, 東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多い見込みです

#### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

#### <気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い